主要国・国際機関等のニュース記事一覧

対象期間	2024年6月17日～2024年7月15日

注目記事	No.	公開日	機関名	キーワード	ニュースタイトル（原文）	ニュースポイント（短文）	内容	感染症種別	ニュース種別										リンク1	リンク2	リンク3
									当該機関の戦略/方針	ワクチン開発進捗	取組		資金提供			イベント	組織設立・再編	感染症状況			
											当該機関	支援対象	重点感染症	その他疾患	外部から当該機関へ						
★	1	2024/6/18	IVI	フランスANRS Emerging infectious diseases（ANRS MIE）、中低所得国の医療ニーズ、臨床研究、MOU	IVI and ANRS Emerging infectious diseases（ANRS MIE）sign an agreement to collaborate for improved access to vaccines - IVI	IVIとANRS Emerging infectious diseases（ANRS MIE）は、中低所得国の医療ニーズへの対応に特に重点を置いた質の高い臨床研究を促進することを目的としたMOUに署名	2024年6月17日、IVIとANRS Emerging infectious diseases（ANRS MIE※）は、中低所得国の医療ニーズへの対応に特に重点を置いた質の高い臨床研究を促進することを目的にパートナーシップを締結した。 この取り組みには、ブラジル、ブルキナファソ、カンボジア、カメルーン、コートジボワール、コンゴ民主共和国、ギニア、マリ、セネガル、ベトナム、ザンビアを含む国々のANRS MIE国際ネットワークのメンバーが参加する。このMOUは、最も被害の大きい地域における感染症対策への共通のコミットメントを強調するだけでなく、協力と革新の新時代に火をつけるものである。 ※ANRS＝エイズとウイルス性肝炎研究に関する国立研究機構（フランス）	―	●		●										リンク	リンク	
★	2	2024/6/18	IVI	パスツール・ネットワーク、地球規模の健康イニシアチブ、MOU	IVI and Pasteur Network sign landmark MoU to enhance global health initiatives - IVI	IVIとパスツール・ネットワークは地球規模の健康イニシアチブを強化するための画期的なMOUに署名	2024年6月17日、IVIとパスツールネットワーク※が協力関係強化のためのMOUに調印した。この合意は感染症対策と世界的な公衆衛生の改善に向けた重要な一歩である。MOUには、研究開発の強化、共同プロジェクトなど、重要な分野での協力体制が概説されている。 IVIの事務局長は、「この協力により世界的な感染症対処能力が向上し、効果的に取り組むことができるだろう」とこの合意の意義を強調した。パスツールネットワークのエグゼクティブ・ディレクターも同様に、「私たちの力を結集し、ワクチンの開発やアクセシビリティを改善することを目指す」と強調した。このMOUは、リソースと専門知識を連携させるものであり、両者はグローバルヘルスに永続的な影響を与える態勢を整えている。 ※パスツールネットワーク＝パスツール研究所をはじめ世界の30の研究機関が参加するネットワーク	―	●		●										リンク	リンク	
★	3	2024/6/18	BARDA	コロナウィルスワクチン、GeoVax, IncのGEO-CM04S1、P2b治験、Project NextGen、Rapid Response Partnership Vehicle	BARDA provides $24 million under Project NextGen for clinical trial of novel COVID-19 vaccine candidate that may provide broader, longer protection	BARDAはGeoVax, Inc.のCOVID-19ワクチン候補GEO-CM04S1のP2b試験に対して、約2400万ドルのProject NextGen資金を提供	BARDAはジョージア州アトランタのGeoVax, Inc.のCOVID-19ワクチン候補GEO-CM04S1のP2b試験に、約2400万ドルのProject NextGen資金を提供する。 これは、新規の新型コロナウイルスワクチンのP2b試験を支援するためにRapid Response Partnership Vehicleを通じて行われた4回目の助成金である。	コロナウイルス感染症		●		●	●							リンク		
	4	2024/6/20	WHO	アフリカ・トリパノソーマ症、NTDs、WHO2030年目標、チャド	Chad eliminates human African trypanosomiasis as a public health problem	アフリカ・トリパノソーマ症（睡眠病）を国から根絶したチャドにWHOが賛辞	WHOは、アフリカ・トリパノソーマ症（睡眠病）を国から根絶したチャドに対して賛辞を贈った。これはチャド国内で初めて根絶された顧みられない熱帯病（NTDs）である。また、これによりWHOの目標を達成した国は51ヶ国となり、2030年の目標である100ヶ国まで半分を切ったこととなる。2024年6月現在、WHOアフリカ地域全体で、20カ国が少なくとも1つの顧みられない熱帯病を排除しており、トーゴは4つの熱帯病を、ベナンとガーナはそれぞれ3つの熱帯病を撲滅している。	トリパノソーマ症			●								●	リンク		
★	5	2024/6/20	CEPI	Bio Funders Compact、バイオセキュリティ、Nuclear Threat Initiative（NTI）、Sentinel Bio、Global Health Security Fund	International Bio Funders Compact to Integrate Biosecurity into Life Science Research Funding｜CEPI	Nuclear Threat Initiative（NTI）とCEPIはバイオサイエンス研究の資金提供者の国際的な枠組み（the international Bio Funders Compact; Compact）を開始	Nuclear Threat Initiative（NTI）とCEPIはバイオサイエンス研究の資金提供者の国際的な枠組み（the international Bio Funders Compact; Compact）を開始した。創設署名者として、NTIとCEPIに加えて、まもなく設立予定の慈善基金であるSentinel Bioと Global Health Security Fundも参加している。 これは、生命科学研究を偶発的または意図的な悪用から守るため、生物科学研究への資金提供プロセスにバイオセキュリティを組み込むものである。多くの資金提供者がバイオセキュリティの厳格なレビューを行っていないため、Compactはこの重要なギャップを埋めることになる。このCompactは、科学者や技術者がバイオセキュリティとバイオセーフティのベストプラクティスを遵守するための資金提供ベースのインセンティブを強化し、資金提供者が不当にリスクの高い研究を支援する可能性を減らし、安全とセキュリティを優先する研究文化を促進することにより、世界の安全保障を向上させるものである。	―	●		●										リンク	リンク	
★	6	2024/6/21	IVI	フランス加盟、コレラワクチン、Biovacの製造能力への投資	IVI welcomes President Macron's announcement of France's membership to IVI - IVI	IVIにフランスが加盟し、IVIがアフリカにおけるワクチン生産に対するフランスの協力に期待	2024年6月21日、IVIはThe Global Forum for Vaccine Sovereignty and Innovationにおいて、フランスがIVIに加盟したことを発表した。IVI事務局長は、フランスがIVIに加盟することを歓迎しており、アフリカのためのワクチン生産を加速するために、フランス政府およびアフリカ加盟国と緊密に協力していきたいと考えている。また、フランスがコレラワクチンの深刻な世界的不足を認識し、経口コレラワクチンの開発と生産におけるIVIの南アフリカのパートナーであるBiovacの製造能力に投資するという約束をしてくれたことに対して称賛している。	コレラ	●		●										リンク		
	7	2024/6/25	IVI	IVI virtual Global Council meeting、タイ	Kingdom of Thailand assumes Presidency of IVI's Global Council - IVI	IVIはタイ保健省のOpart Karnkawinpong氏をvirtual Global Council meetingの初代議長に任命	2024年6月24日に開催されたvirtual Global Council meeting で、IVIは、タイ保健省のOpart Karnkawinpong氏をこの評議会の初代議長として任命した。また、2024年9月23日～24日に実施される第二回の評議会の議題も設定した。Opart氏は、2年間のこの任命を受け入れ、the ASEAN Vaccine Security and Self-Reliance（AVSSR）イニシアチブの推進におけるタイの極めて重要な役割をついても言及した。	―									●			リンク		

主要国・国際機関等のニュース記事一覧

対象期間	2024年6月17日～2024年7月15日

注目記事	No.	公開日	機関名	キーワード	ニュースタイトル(原文)	ニュースポイント(短文)	内容	感染症種別	ニュース種別										リンク1	リンク2	リンク3
									当該機関の戦略/方針	ワクチン開発進捗	取組		資金提供			イベント	組織設立・再編	感染症状況			
											当該機関	支援対象	重点感染症	その他疾患	外部から当該機関へ						
	8	2024/6/27	IVI	Korea Disease Control and Prevention Agency(KDCA)、パンデミック予防・緩和、ワクチン開発	IVI, KDCA co-host ‘2024 Global Vaccine Forum’ to accelerate development of vaccines for pandemic diseases - IVI	2024年6月27日、IVIとKorea Disease Control and Prevention Agency(KDCA)は COVID-19パンデミックを振り返る「2024 Global Vaccine Forum」を共同共催	2024年6月27日、IVIとKorea Disease Control and Prevention Agency(KDCA)は「2024 Global Vaccine Forum」を共同共催した。「次のパンデミックに備える - ワクチン開発のための地域協力の機会」をテーマに、COVID-19パンデミックから学んだ教訓を評価し、今後のパンデミックの予防と緩和に役立てるため、特にアジアでワクチン開発と製造のパートナーシップの機会を探った。	ー								●			リンク		
	9	2024/6/27	NIH	エンテロウイルスD68、Vanderbilt University Medical Center、モノクロナール抗体EV68-228-N	NIH-sponsored trial of enterovirus D68 therapeutic begins｜National Institutes of Health (NIH)	NIAIDが支援するVanderbilt University Medical Centerにより開発されたエンテロウイルスD68(EV-D68)の治療に使用する新型モノクローナル抗体EV68-228-Nの安全性を評価するP1試験が開始	2024年6月、Vanderbilt University Medical Centerにより開発されたエンテロウイルスD68(EV-D68)の治療に使用する新型モノクローナル抗体EV68-228-Nの安全性を評価する臨床試験が開始された。この研究は、NIAIDにより支援されており、P1試験では、EV68-228-Nの安全性、体内持続時間、および最適な投与量を評価する。	エンテロウイルスD68感染症				●	●						リンク	リンク	リンク
★	10	2024/6/28	GAVI	5か年計画、the African Vaccine Manufacturing Accelerator (AVMA)	Protecting more children, against more diseases, faster than ever before: Gavi, the Vaccine Alliance unveils plans for next 5-year period	Gaviは、the Global Forum for Vaccine Sovereignty and Innovationをアフリカ連合とフランスとで共催し、5か年計画とthe African Vaccine Manufacturing Accelerator(AVMA)の立ち上げを発表	2024年6月21日、Gaviは、the Global Forum for Vaccine Sovereignty and Innovationをアフリカ連合とフランスとで共催した。このイベントでは、次の戦略期間である2026～2030年の投資機会を発表し、取り組みを支援するよう、Gaviは呼びかけた。また、今後10年間で約12億ドルの資金によって支えられるthe African Vaccine Manufacturing Accelerator(AVMA)も立ち上げられた。	ー	●		●					●	●		リンク		
★	11	2024/7/1	IVI	Catholic Medical Center of the Catholic University of Korea (CMC of CUK)、MOU、ワクチン開発	IVI and Catholic Medical Center sign MOU for joint development and clinical trials of infectious disease vaccines - IVI	IVIとthe Catholic Medical Center of the Catholic University of Korea (CMC of CUK)は、感染症ワクチンの共同開発と臨床試験のためのMOUに署名	IVIは the Catholic Medical Center of the Catholic University of Korea (CMC of CUK)との協力に関する覚書(MOU)に署名した。両機関は研修やセミナーなどの科学交流を通じて基礎研究および臨床研究を共同で実施するほか、CMCのVaccine Bio Research Institute(VRIC)を通じてワクチン開発プロジェクトを実施する。IVI の事務局長は、「今回の覚書を通じて、感染症に関する基礎・臨床研究の戦略構築において大きな相乗効果を生み出すことを目指す」と述べている。	ー	●		●								リンク		
	12	2024/7/1	GHIT Fund	GHIT Fund選考委員	新選考委員就任のお知らせ	GHIT Fund、選考委員にサリー・ニコラス氏が就任	GHIT Fundの選考委員にサリー・ニコラス氏が就任した。免疫学の専門家であり、ウェルカムの保健システム・環境部門の責任者として、保健システムの強化や医薬品アクセスの世界的な向上に取り組んでいる。この発表と同時に前任のティモシー・ジンクス氏の退任も発表された。彼の豊富な経験や知識で多くのプロジェクトが推進され、このことに対して感謝の言葉が送られた。	ー			●								リンク		
★	13	2024/7/1	NIH	P1試験、コロナウィルス亜種、経鼻ワクチン、Project NextGen、MPV/S-2P	NIH-sponsored trial of nasal COVID-19 vaccine opens｜National Institutes of Health (NIH)	NIAIDの科学者により前臨床試験で設計・試験されたSARS-CoV-2亜種に対する治験用ワクチンMPV/S-2PのP1試験が開始	2024年6月、NIAIDの科学者により前臨床試験で設計・試験された治験用ワクチンMPV/S-2PのP1試験が開始された。このワクチンは、SARS-CoV-2亜種に対する予防効果を高める可能性のある経鼻ワクチンの安全性を検証するものである。18～64歳の健康な成人を対象に、既にFDA認可のmRNAコロナワクチンを3回以上接種した人を対象にしている。試験は3つの施設で行われ、参加者は60名を目標としている。この試験は米国保健社会福祉省(HHS)のProject NextGenの一環として実施される初めてのNIAID臨床試験である。	コロナウイルス感染症		●	●		●							リンク	リンク	
★	14	2024/7/1	BARDA	BARDA DRIVe、DCT、募集内容更新	BARDA updates the D-COHRe program, seeking to enhance clinical innovation with decentralized care capabilities	BARDA DRIVe、D-COHReプログラムの戦略的パートナーシップ募集を更新	BARDA DRIVeは、D-COHReプログラム※の戦略的パートナーシップ募集を更新した。今回、【Objectives】,【Technical minimum and desired capabilities】,【Exclusion criteria】,【Technical proposal requirements】,【Proposal evaluation criteria】,【Appendix to include a template Statement of Work (SOW)】の内容の更新が行われた。このプログラムでは、最大で200 万ドルの初期投資を投じて、将来の分散型臨床研究における医療対策および医療提供のための予備的な能力構築を完了させるための提案を複数採択する。 ※D-COHRe＝Decentralized Clinical Operations for Healthcare and Research	ー			●								リンク		
★	15	2024/7/2	BARDA	パンデミックインフルエンザ、Modern、mRNAワクチン、Rapid Response Partnership Vehicle (RRPV)	HHS provides $176 million to develop pandemic influenza mRNA-based vaccine	BARDA、Moderna開発のパンデミックインフルエンザmRNAワクチン開発に資金提供	BARDAは、Modernaが開発しているパンデミックインフルエンザのmRNAワクチンのために1億7,600万ドルの資金提供を行う。この契約は、Rapid Response Partnership Vehicle (RRPV) を通じて行われる。	インフルエンザ		●		●	●							リンク		
	16	2024/7/3	CEPI	ニパウイルス、モノクロナール抗体MBP1F5、P1試験、インド、バングラディシュ	New human trials for novel antibody offer hope for immediate protection against deadly Nipah｜CEPI	CEPIが資金提供したServareGMP、Mapp Biopharmaceuticalにより開発されたニパウイルスに対するモノクロナール抗体MBP1F5を評価するためのP1試験がインド、バングラディシュで2025年に実施される予定であること発表	2024年7月3日、CEPIはニパウイルスを対象にしたモノクロナール抗体MBP1F5を評価するためのP1安全性試験がインド、バングラディシュで実施される予定だと発表した。2025年開始予定で、CEPIは4,350万ドルの資金提供を行っている。なお、この抗体はServareGMP、Mapp Biopharmaceuticalにより開発された。	ニパウイルス感染症				●	●							リンク		

主要国・国際機関等のニュース記事一覧

対象期間	2024年6月17日～2024年7月15日

注目記事	No.	公開日	機関名	キーワード	ニュースタイトル(原文)	ニュースポイント(短文)	内容	感染症種別	ニュース種別										リンク1	リンク2	リンク3
									当該機関の戦略/方針	ワクチン開発進捗	取組		資金提供			イベント	組織設立・再編	感染症状況			
											当該機関	支援対象	重点感染症	その他疾患	外部から当該機関へ						
	17	2024/7/4	WHO	バイオセキュリティに関するガイダンス(Laboratory biosecurity guidance)	WHO updates laboratory biosecurity guidance	WHO、研究所のバイオセキュリティに関するガイダンス(Laboratory biosecurity guidance)を更新	2024年7月4日、WHOは国家当局と生物医学研究所が生物学的リスクを管理するための最新ガイダンスであるLaboratory biosecurity guidanceを発表した。ガイダンスの新たな更新点としては、サイバーセキュリティ対策の強化や患者記録などの機密情報の取り扱い、遺伝子組み換えや病原体の操作、AIに関するものを含む新技術によるリスクの低減などの緊急時における研究所の安全・安心の確保に関するアドバイスなどがある。このガイダンスは、研究機関や国家当局の関与とコミットメントを促進することにより、重大な影響を及ぼす病原体や研究作業に関連するリスクを軽減するものであり、これらの対策は、合法的な生物医学研究の継続を可能にする一方で、故意であれ不注意であれ、生物試料の誤用や放出から地域社会を守ることを目的としている。	―			●									リンク		
	18	2024/7/4	GHIT Fund	住血吸虫症、新たな治療選択肢	住血吸虫症に対する就学前児童向けの新たな治療選択肢の導入に向けて	住血吸虫症の新たな治療選択肢に関するGHIT Fundの戦略的会議を東京で開催	2024年5月、小児用プラジカンテル・コンソーシアム、WHO、ウガンダ、ガーナなどの各国代表者など、主要なステークホルダーが集まり、住血吸虫症治療の新しい選択肢について東京で会議を開催した。この会議は、「東京コミットメント：小児住血吸虫症の新たな治療選択肢への子どもたちのアクセス確保」と題され、Uniting Efforts for Innovation, Access and Delivery(Uniting Efforts)により開催された。戦略的会議では、新しい治療選択肢の導入とアクセス確保に向けた議論がなされ、各国の取り組みが共有された。この会議は住血吸虫症がまん延している国の就学前児童が切実に必要としている治療を受けられるようにするための、大きな一歩となるものである。	住血吸虫症								●				リンク		
★	19	2024/7/8	CEPI	AIプラットフォーム、ウイルスのリアルタイム分析、100日ミッション	Apriori receives funding boost from CEPI to advance AI platform to protect against viral threats｜CEPI	CEPIは生物学的情報に基づく人工知能(AI)プラットフォームOctavia™の開発を行うApriori Bio社に資金提供	2024年7月8日 、Apriori Bio社は、CEPIから110万ドルの助成金を受けた。この資金によりApriori Bio社は、急速な進化を行うウイルスから人類を守ることができるOctavia™のAIプラットフォームを進化させることを目指している。Octavia™はウイルスの変異をリアルタイムで予測し、ワクチンや抗体薬を設計することができる人工知能(AI)プラットフォームである。このような情報を前もって把握することで、世界のパンデミックに対する準備態勢を大幅に強化し、100日ミッションの達成に近づけることができる。このプロジェクトは、CEPIのワクチン・イノベーション募集の一環として発表された2番目のプロジェクトである。	―		●		●								リンク		
	20	2024/7/8	NIH, NIAID	ウシ由来のH5N1ウイルスの哺乳類への感染	Features of H5N1 influenza viruses in dairy cows may facilitate infection, transmission in mammals｜National Institutes of Health (NIH)	ウシ由来のHPAI H5N1ウイルスがこれまでのHPAI H5N1ウイルスとは異なり、哺乳類の感染と伝播を容易にする特徴を持っている可能性	Nature誌掲載のNIAIDが資金提供した研究結果によると、授乳中の乳牛由来のウイルスを経鼻投与すると、マウスとフェレットに重篤な疾患を引き起こすことが判明した。重要な点は、呼吸器飛沫を介して曝露されたフェレット間では効率的に感染しなかったことである。この研究結果は、牛由来のHPAI H5N1ウイルスがこれまでのHPAI H5N1ウイルスとは異なり、哺乳類の感染と伝播を容易にする特徴を持っている可能性があることを示唆している。しかし現時点では、このウイルスは動物の間やヒトの間で効率的な呼吸器伝播は行わないようである。	インフルエンザ				●								リンク		
	21	2024/7/9	BARDA	医療機器ソフト、初承認、診断支援	Software Device to Identify Health Deterioration in Hospitalized Patients Becomes Latest FDA-Cleared Medical Countermeasure with BARDA Support	BARDAが支援しているAgileMDが開発したeCARTv5 Clinical Deterioration Suite ("eCART")が医療機器ソフトとして承認を取得	2024年6月21日、BARDAが支援しているAgileMD社が開発したeCARTv5 Clinical Deterioration Suite ("eCART")が医療機器ソフトとして承認を取得した。この医療機器は、BARDA支援の械学習対応の医療機器ソフトとして、初めて認可されたものである。このソフトは入院患者の臨床的悪化のリスクを機械学習により継続的に評価するため、医療スタッフがより早く介入して命を救うことができるようになる。BARDAは、COVID-19パンデミック発生初期のような感染症の流行初期に、医療従事者を支援するための技術を追求している。	―				●								リンク	リンク	
★	22	2024/7/10	CEPI	H5N1ウイルス、ウシ、ウイルスへの対応準備	CEPI steps up H5N1 preparedness as outbreak in cattle persists｜CEPI	CEPI、牛で流行中のH5N1鳥インフルエンザへの備えを強化	米国での牛におけるH5N1鳥インフルエンザの発生は、このウイルスが哺乳動物に広がり始めた初めての事例となっており、農場労働者にも感染が確認されている。現時点では一般の人々には危険をもたらしていないが、ウイルスが変異する可能性があるため、リスクレベルが上下に変化する可能性はある。CEPIはH5N1のリスクに対応するため、専門家グループを結成し、ワクチン開発や情報収集などの準備を進めている。	インフルエンザ	●		●									リンク	リンク	
	23	2024/7/12	NIH	コロナウイルス再感染、RECOVER	Study suggests reinfections from the virus that causes COVID-19 likely have similar severity as original infection｜National Institutes of Health (NIH)	NIAIDが資金提供したウィスコンシン大学マディソン校の研究者がCOVID-19 を引き起こすウイルスに再感染した場合、最初の感染と同程度の重症度になる可能性が高いことをCommunications Medicine誌に発表	NIAIDが資金提供したウィスコンシン大学マディソン校の研究者がCOVID-19 を引き起こすウイルスに再感染した場合、最初の感染と同程度の重症度になる可能性が高いことをCommunications Medicine誌に発表した。また、初回感染と比較して再感染後に長引くlong-COVIDの発生リスクが高いことも示された。この再感染のリスクは、アルブミンに起因しており、このアルブミンの低下がリスクマーカーである可能性が示されている。この研究は、NIHのCOVIDを改善するための研究(RECOVER)イニシアチブによって資金提供されている。	コロナウイルス感染症				●								リンク	リンク	

注目記事星取ルール
ワクチンの開発状況
ワクチンや重点感染症に関するFAの戦略/方針
ワクチン開発関連において新規技術の活用